

「夢の力」 国際社会のより良い未来のために

岐阜市立長森中学校 3年

岡田 堇

私は1年ほど前から、夢をもつことの大切さを意識するようになりました。「自分は将来こんなふうになりたい」、「こんなことをしたい」といった夢だけではありません。「皆の未来をより良くしよう」というヴィジョンも考えています。そして「皆」とは、身近な人たちから、広く外国の人々までをイメージしています。

私は小学校から中学1年生までIBスクールに通っていました。学校の教育方針では、これからの時代に必要な力を育てることが重視されていました。つまり、課題を見つけ解決策を考えるスキルやコミュニケーションを図る能力などです。地球環境や国際社会に関する課題も、よく授業のテーマになっていました。このようなことを学ぶ中で、人のために何かをすることや、外国の様子、さらには国際的な平和などに関心が高まってきました。

これまで私は地元の美化活動や、国際的ないくつかの支援活動に参加しました。例えば、ダイビングのライセンスを活かし、長良川のゴミを取り除く取組。トルコ大地震に際して、募金や支援物資を集めてトルコ領事館に届ける活動、フェアトレード商品を買付け販売し、利益をユネスコに寄付するプロジェクトなどです。困っている人たちがいることを、自分のことに置き換えて考えてみると、協力したい気持ちになったのです。

中学2年生の夏、私はカンボジアに行きました。岐阜市の青少年国際教育事業「夢プロジェクト」で、中学生16人が派遣されました。現地では驚いたのは、暮らしが非常に貧しい人がたくさんいたことです。子ども達の学校も学習環境や教師の数が不十分な環境でした。しかし、教室の子ども達の目はキラキラと輝き、一人一人に警察官やボクシング選手などといった夢がありました。もう一つ驚いたことは、内戦の傷跡と、その改善に尽力する人々でした。地雷の撤去と、農業の復興に日本から来た専門家が活躍していました。私はその方々の志高く夢を語る姿に感動し、その使命感の強さを尊敬しました。カンボジアでの体験の最大の収穫は、「夢をもって一生懸命生きることの大切さ」でした。

私は日本に帰ってから、カンボジアでの貴重な体験を生かす行動を考えました。まず、学校の皆への情報共有から始めました。お昼の放送で報告をし、クラスで特別授業を先生と企画しました。そして、自分の発表に基づいて国際平和などについて話し合いました。今年度の初めには、校長先生のご了承を得てカンボジアの小学校へ文房具の支援を呼びかけました。また、JR岐阜駅で募金活動も行いました。

文房具は鉛筆952本、消しゴム169個などのたくさんの協力があり、とても嬉しく思いました。集まった文房具は東海建設業共同組合さんをお願いして、カンボジアのトゥクチョウ小学校に届けてもらいました。その後、この小学校から子ども達が喜んでいる写真やこのような感謝状が届きました。この子ども達には頑張って夢を叶えてほしいです。私がこのような活動を実行できた原動力、それは、カンボジアで出会った子ども達が一生懸命勉強する姿が頭に焼き付いていたからです。また、自分も人を助けられる人に、人に協力できる人になりたいと考えたからです。そして自分の夢も、皆の夢もお互いに助け合えば叶えられるものだと思っています。一人一人が夢を持つことができれば、一生懸命に生きることができ、私たちに、より良い未来が切り拓かれていくのです。